



業 種	鉄道・軌道																																				
取組分野	事故、ヒヤリ・ハット情報等の収集・活用																																				
テ ー マ	踏切事故防止（安全啓発テレビCMの放映その他の取組み）																																				
取組の狙い	踏切通行者の安全意識及び理解度の向上を図り、踏切事故防止を図る。																																				
具体的内容	<p>四国旅客鉄道株式会社は、車による踏切事故を防止するため、<u>幅広いターゲットに対して速やかに認知してもらうことが可能なテレビCM</u>を通じ、踏切通行時のルール及び車が踏切内に閉じ込められた場合の対処方法を伝えている。</p> <p>I 「脱出編」</p> <p>踏切通行者の理解と認識を深めるため、「踏切では、必ず一旦止まって左右の安全を確認してから通行する」ことを伝えている。また、立ち往生時の対処方法として、「渋滞等により車が踏切内に閉じ込められた場合は、慌てずに車をゆっくり前進させポールを斜めに押し上げながら脱出する」ことを伝えている。</p> <p>II 「列車防護編」</p> <p>「脱出編」と同様に、踏切通行者の理解と認識を深めるため、踏切通行時のルールを伝えている。また、立ち往生時の対処方法として、「落輪・故障等で車が動かさなくなり、踏切内に閉じ込められた場合は、踏切非常ボタンを押すか、車に備え付けの発炎筒を使い、列車に合図する」ことを伝えている。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>「脱出編」15秒版</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>「列車防護編」15秒版</p> </div> </div>																																				
取組の効果	<p>【定量的な効果】</p> <p>1. 踏切支障報知装置使用で踏切事故を防止したと考えられる件数</p> <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件 数</td> <td>20</td> <td>18</td> <td>33</td> <td>27</td> <td>24</td> </tr> </tbody> </table> <p>※H28年度は、H29年2月末日現在</p> <p>2. 踏切支障報知装置の有効利用件数</p> <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>踏切支障報知装置の使用件数</td> <td>141</td> <td>121</td> <td>110</td> <td>93</td> <td>77</td> </tr> <tr> <td>有効利用件数（内数）</td> <td>20</td> <td>18</td> <td>33</td> <td>27</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>有効利用率</td> <td>14%</td> <td>15%</td> <td>30%</td> <td>29%</td> <td>31%</td> </tr> </tbody> </table>	年 度	H24	H25	H26	H27	H28	件 数	20	18	33	27	24	年 度	H24	H25	H26	H27	H28	踏切支障報知装置の使用件数	141	121	110	93	77	有効利用件数（内数）	20	18	33	27	24	有効利用率	14%	15%	30%	29%	31%
年 度	H24	H25	H26	H27	H28																																
件 数	20	18	33	27	24																																
年 度	H24	H25	H26	H27	H28																																
踏切支障報知装置の使用件数	141	121	110	93	77																																
有効利用件数（内数）	20	18	33	27	24																																
有効利用率	14%	15%	30%	29%	31%																																

	<p>【定性的な効果】</p> <p>平成24年度以降は、春秋の交通安全運動期間に合わせてテレビCMを放映するとともに踏切事故防止キャンペーン期間を含む年3回の踏切事故防止PR活動にて、参加者に次の3つの体験学習（①発炎筒の使用体験、②踏切支障報知装置の使用体験、③乗用車に乗車しての踏切からの脱出体験）を促している。</p> <p>その際の定性的な印象であるが、参加者の一部は、特段の説明なく発炎筒・報知装置が使用でき、遮断桿が押し上げ可能であることも承知していることから、安全啓発CMでの疑似体験による影響と考えている、</p>
事業者名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 四国旅客鉄道株式会社 鉄道事業本部 安全推進室 (連絡先 087-825-1666) ・ CM (STOP! 踏切事故) <p>http://www.jr-shikoku.co.jp/04_company/safety/fumikiri/index.htm</p>

本事例は、鉄道事業者の取組として掲載しましたが、「踏切事故を防止するためには、踏切通行者の協力が欠かせない」ことを踏まえ、自動車運送事業者にも共通するテーマと考えます。

なお、事業者のメッセージを他へ伝える手段は、CMだけではありません（JR四国は、CMを自社HPで公開している他、国土交通省では、運輸安全マネジメント制度を解説したビデオをYouTubeで公開しています）。